

誰もが自分らしく生き活きとくらす 「サステナブルな共生社会」の実現に向けて

パナソニックグループは創業以来、「社会生活の改善と向上」と「世界文化の進展」の実現に向けて、事業活動とともに企業市民活動を通じて社会課題の解決や、新たな社会価値の創造、社会の発展に貢献すべく取り組んでまいりました。

一方、グローバルでの社会課題をとらえると、国際社会共通の持続可能な開発目標である「SDGs」には、目標1に「貧困の解消」が掲げられています。

長期化するウクライナ情勢での世界的危機による影響に加えて、世界各地で頻発する自然災害やイスラエル・パレスチナ紛争等、新興国・途上国における絶対的貧困はもちろんのこと、先進国においても相対的貧困の深刻化による格差が拡大しつつあるなど、依然として世界中でその解決にむけた継続的な取り組みが必要です。

松下幸之助創業者も、企業の社会的使命として「産業人の使命は、この社会から『貧困』をなくしていくこと」と語っています。

本ファンドでは、創業者の言葉に立ち返り、世界的な社会課題である「貧困の解消」に向けて取り組むNPO/NGOが持続発展的に社会変革に取り組めるよう、組織課題を明らかにする組織診断や、具体的な組織課題の解決、組織運営を改善するための組織基盤強化の取り組みに助成します。

なお、昨年度から、組織基盤強化の効果がより高まるよう「組織診断からはじめるコース」の期間と助成金額を拡充するなどプログラムを改訂しています。

社会において重要な役割を果たすNPO/NGOの組織基盤強化の取り組みを通じて、市民活動の持続的発展、社会課題の解決促進と新しい社会価値の創造、社会変革に貢献し、誰もが自分らしく生き活きとくらす「サステナブルな共生社会」の実現を目指してまいります。

組織の自立的成長と自己変革に挑戦するNPO/NGOの皆様からの応募をお待ちしています。

2024年4月

パナソニックホールディングス株式会社

組織基盤強化に取り組んで

認定NPO法人 アジア・キリスト教教育基金 (ACEF)

1990年の設立以来、バングラデシュでノンフォーマル学校や職業訓練校を支援し、日本の若者のスタディツアーを実施してきました。長年団体を支えてくれた会員の高齢化により寄付が減少しても、現地のパートナーNGOは日本からの送金に95%依存していました。

そこで助成1年目は、組織診断に取り組みコンサルタントと構造的問題を洗い出すワークショップを開きました。2年目は、組織強化のために新しいミッション・ビジョンを策定し、会員やパートナーNGOと共有。現地とオンラインで対話を重ね、危機的状況と今後の方向性をシェアしたことで、現地パートナーの自立に向けた活動に着手できました。日本国内でも、学校との連携や「ACEFユース」というボランティアチームを再結成し、さらに活動に若者を巻き込んでいきたいと考えています。

認定NPO法人 PIECES

子ども・若者の孤立を防ぐために、子どもに関わる人の質の向上や市民性の醸成に取り組んでいます。設立から5年経ち、組織のフェーズが変化する中で中長期的な視点が必要になりました。コンサルタントが加わった組織診断では事業・組織・財務の課題が浮かび上がり、漠然とした不安が解消されて、メンバー間の目線が共有されました。2年目は、Citizenship for Childrenというコア事業の受講者へのヒアリングを通して、サービスモデルを再設計し、自分たちのよりどころとなるコアバリューを言語化。ファンドレイジングに力を入れるために、新しいスタッフも採用しました。3年目は、各地域の団体と協働で、コア事業のエッセンスを採り入れ、その地域に合わせた形で実施していけるように、コンソーシアム化に取り組みました。寄付に関しては、過去に支援実績のある企業とコミュニケーションを取ることで、半年で終わらない複数年の大口寄付につなげることができました。合宿などで対話を重ねたことで、ダイナミックな変化が起き、団体は次の成長フェーズに差し掛かっています。